



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



大阪部会 (No.82)

日時: 2023年 1月 28日 (土) 15:00 - 17:05

場所: 同志社大阪サテライト+ZOOM会議

参加者: 参加24名(会場8名、zoom16名)

【内容要旨】

最初に阿部哲久氏(広島大学付属高校)から「ナッジを扱った「課題研究」の事例報告」がなされた。環境省と行動経済学会の共催によるベストナッジ賞を受賞した自校生徒の「課題研究」の内容を紹介するとともに、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)「課題研究」の進め方や問題点を挙げたものである。まず阿部氏の高校では当初一部の生徒だけだった「課題研究」を理系・文系問わず全生徒に課すようになってきていること、1年生で「調べ学習」と「研究」との違いを学んだうえで研究テーマを探し絞り込んでいくこと、2年生で計画を立て調査を開始し秋には中間発表を行うこと、3年生始めに論文にまとめること、などが説明された。

環境省の専門委員会での成果を発表し賞を受けたのが、3人の生徒による「駐車場の自転車の並びの改善へのナッジの活用」であった。駐輪場での自転車の並びを改善するために、4種類のナッジを考え、その効果を検証した実験結果をまとめたものである。発表は、課題の提示、ナッジの内容、結果指標、実験の実施、考察、今後の展望の順に進められ、中間報告で指摘された問題点を改善した経過にも触れている。専門委員会では複数のナッジを比較検証した点などで高い評価を受け、それが受賞につながった。

阿部氏からは、文系の課題研究においてはデータ収集、統計処理、質的分析、文献研究など多くの面で、専門的な「研究」が難しいとの指摘があった。それを改善するためには、理系で多く見られる学会との協力関係や、大学・大学院と高校との連携が必要であるとの意見が述べられた。

報告に対し、丹松美代志氏(大阪学びの会)からは、駐輪場というテーマの選択がよく深い学びにつながっているという評価があり、大塚雅之氏(大阪府立三国ヶ丘高校)からはテーマ選びについての質問が出された。また新井明氏(目白大学)からは、数学・理科・社会など通常授業との関係や、行動経済学会以外の文系の学会と高校の連携の可能性についての質問があった。

次に梶谷真弘氏(茨木市立南中学校)から「経済の視点を取り入れた歴史学習ー企業の社会的責任を事例にー」が報告された。昨年の「夏休み経済教室(東京・中学)」のプログラム「歴史で経済を教える」の続編である。昨年夏には大阪淀屋や江戸の三大改革が経済の視点からとらえられたが、今回は企業の社会的責任と題して、足尾銅山と別子銅山の問題が取り上げられている。刊行されたばかりの梶谷氏の著書『オーセンティックな学びを取り入れた中学歴史授業&ワークシート』(明治図書)第2章単元16の「日本の近代化の光と影」で扱われている内容である。教科書単元としては歴史的分野の近代(アジアの強国の光と影、帝国主義、日本の近代化)と、公民的分野の経済(公害、企業の社会的責任)をリンクさせながら、5時間の授業で構成されている。

今回紹介されたのは、足尾鉍毒問題での田中正造と別子銅山煙害問題での伊庭貞剛を取り上げた箇所であり、企業の社会的責任を倫理面からではなく経済面から捉えようとした授業である。当時の日本の状況や主な人物の役割を学び、足尾銅山の採掘を続けるべきか、別子銅山の採掘を続けるべきか、とい



う問いかけに対して、生徒が自分なりの答えを出せるよう、ワークシートをもとに多面的・多角的に学べるよう工夫されている。

報告に対し、兼間昌智氏（札幌大学）から足尾銅山は教科書に載っているのに別子銅山は載っていない理由についての質問とともに、足尾が人権や公害問題の側面が強いのにに対し、別紙は経済問題の側面が強いなどの見方が示された。新井明氏からは、「オーセンティック」の意味と重視する理由についての質問と、足尾と別子を比較する場合の取り上げ方についての助言があった。また、丹松氏からは一次資料にあたることの重要性が、李洪俊氏（大阪市立矢田南中学）からは時間配分の難しさが指摘され、加えて李氏からは現代の途上国への公害輸出と関連づけられるとの提案もあった。その後、埴枝里子氏（東京都立農業高校）から、生徒は経済の視点であることを分かっているのか、経済的な見方が身についたことをどう評価するのかとの質問が出された。梶谷氏からは、歴史を経済で見る授業を繰り返すうちに、生徒がワークシートに書く内容が多面的多角的に変わってくるとの返答があった。

最後に大塚雅之氏から「大阪府堺市と連携した公民科の授業の構想」が発表された。三国丘高校と堺市が連携して進めているナッジを使った授業の中間報告である。まず公民科の授業でナッジを取り上げる意義や利点がいくつかあげられた。現実の公共政策で政策ナッジが活用されている点、生徒にも日常経験と関連づけて理解し課題解決策を着想しやすい点などである。ちょうど堺市でもナッジユニットが立ち上げられており、高校と市が連携して政策ナッジを構想し堺市内で効果検証することになった。堺市職員だけでなく環境NPOの協力も得て、6次の授業計画が作られ現在進行形である。

第1次の授業では、市場の失敗とそれを補う公共政策の考え方を学習し、ゴミ処理問題について公共政策の手段、正当性、限界について理解する。そして実際に千葉市や横浜市でとられている政策を検討評価する。第2次の授業では、ごみの減量を目指している堺市において、食品ロスを減らすためのナッジ政策を考え始める。第3次では、政策提案に役立ちそうなデータ資料を読み取る学習のあと、婚活ナッジ（市主催の婚活イベント、優良婚活支援企業の認定など）について生徒に評価させている。今回の大阪部会では、この評価結果が報告された段階だが、今後は、良いナッジに求められる条件を満たした政策の作成、市職員・NPO・飲食店との交渉ロールプレイングを通じたナッジ政策の修正、そして実証実験へと進むとの計画が示された。

報告に対して、阿部哲久氏から、ナッジに関心をもつ生徒とたない生徒とではっきり分かれるが授業の中で変わるかとの質問があり、大塚氏から、題材によって生徒の反応が違い、婚活アプリの例は生徒の反応が強く、外国との比較や他の話題へも広げられたとの回答があった。また、米田謙三氏（関西学院千里国債中高等部）からは過疎化を防ぐ政策で千早赤阪村と連携していることが紹介され、松井克行氏（西九州大学）からは市やNPOとの連携がまさに梶谷氏が強調したオーセンティックな授業に通ずるとの指摘があった。その後ナッジの定義（範囲）について新井氏からの質問・意見が出され、大塚氏・阿部氏とはやや隔たりがあることが明らかになった。

（文責：野間敏克）

テスト問題 (新テストなど)	✓中学 小学	✓高校	✓指導案	新聞教材(NIE)
-------------------	--------	-----	------	-----------

次回開催予定：2023年3月18日(土)15:00～17:00、場所形式未定